

⑤9重要港湾高知港大型客船受入施設整備事業

受賞機関 高知県 土木部 港湾・海岸課、
高知土木事務所

全建賞審査委員会の評価ポイント

「使いながら造る」をコンセプトに既存岸壁の改良整備を進め、大型客船受入を可能にした事業。2つの連続した既存の大水深岸壁を活用し、係船柱、防舷材の増設、バスマードの整備等を行うことにより、受け入れ体制を強化し、大型外国客船の急増につながったことを評価。

1. はじめに

高知港（高知港三里地区）は、県経済の物流・交流拠点として、昭和63年に整備に着手し、「使いながら造る」をコンセプトとして整備を進め、平成10年には、一部の岸壁の供用を開始し、平成26年には、全国の地方港湾に先駆けて連続した大水深岸壁を有する（写真（右下））三里3・4号岸壁の供用を開始した。

一方、中国を拠点としたアジアクルーズの人気の高まるなか、大型外国クルーズ客船の受入環境の整備や積極的な誘致活動により、外国クルーズ客船の寄港が増加している。

2. 事業の概要

国と高知県では、我が国への外国クルーズ客船ブーム到来にいち早く着目し、大型外国クルーズ客船が安全に着岸できるように、大型の係船柱の増設や潮位変動による潜り込み防止のため、防舷材の増設を行った。また、大型外国クルーズ客船が寄港した場合、最大で100台以上のツアーバスの利用が見込まれることから、多くの乗客の皆様へ安全かつ円滑にバスに乗降してもらうため、バス駐車場及び臨港道路の整備も行った。さらに、静穏度の向上のために、国による防波堤の整備も進められている。



平成28年6月29日 大型外国クルーズ客船寄港時

3. 事業の成果

大型外国クルーズ客船が寄港できる港に整備したことにより、寄港回数の急増（平成27年実績3回→平成28年実績24回）につながったことは、高知県にとって大きな経済効果をもたらしている。

例えば、乗船客・乗組員が高知に滞在することとなり、飲食や土産物に関連する売上が伸びることが挙げられている。

また、一度に多くの外国人観光客が本県を訪れることで、本県の海外での認知度が高まり、リピーターの確保につながる第一歩になる可能性もあることから、本県の国際観光を推進するうえで、大きなチャンスになるものと考えている。

4. おわりに

昨年度は嬉しいニュースがあった。待ち望んでいた「クイーン・エリザベス」が平成29年3月19日に寄港したことである。平成24年に一度寄港打診をいただいたが、その当時は岸壁整備が整っておらず、その受け入れを断腸の思いでお断りした経緯があった。今回はハード・ソフト両面において受け入れ環境の整備が進み、万全の態勢でお迎えできたことに、しみじみと喜びを感じている。



三里4号岸壁

三里3号岸壁

平成29年3月19日 クイーン・エリザベス寄港時

今後も、高知港を外国クルーズ客船の寄港地として、寄港の増加・定着化に向けて積極的に整備を進めるとともに、物流の拠点として貨物船の利用も増加していることから、互いの共存を図りながら、安全で使いやすい港づくりにまい進していきたい。